

「ワクワクの宝庫」でした！

昨日からの警報が解除されず、今日は休校になってしまいました。残念ですね。自然の前では人間は無力です。じっと耐えるより仕方がありませんね。

私の家の近くに土岐川があります。こここのところの雨で水量が増し、濁流が荒れ狂う様子に恐怖さえ感じます。しかし、小中学生頃の私は、川の水かさが増すとワクワクしていました。なぜだかわかりますか。それは釣果が上がるからです。

誤解しないでください。荒れ狂う濁流の中で釣りをするわけではありませんよ。雨が止み、だんだんと水かさが減っていきみます。濁りが消え、いつもより水かさが多いなあと思えるぐらいがちょうどよいのです。

昔はおもしろいほど釣れました。釣った魚を持って帰ると、母が調理し、それを肴（さかな）に父が晩酌をしていたことを覚えています。今では考えられないかもしれませんが、昔はそれが普通だったのです。

今は護岸工事が行き届いており、川の水がスムーズに流れます。人々の安全な生活を実現するためには当然必要なことです。しかし、その分、流れが速くなり、魚たちが隠れ家とする大きな石、葦（あし）の茂み、淵（ふち）やよどみがずいぶん少なくなりました。農薬や生活汚水が川に流れ込むという心配もありますしね。

川の生き物にも変化が生まれています。いちばんわかるのが、夕方の川面です。昔は数え切れないほどの魚が川面に跳ねていました。大物が跳ねると、その音も聞こえたぐらいです。鯉（こい）や鮒（ふな）も多くいましたよ。橋の上からは、優雅に泳ぐ姿が見られました。鰻（うなぎ）もいましたね。細い竹の棒に針をつけ、ミミズを餌（えさ）に岩陰にそっと入れると、皆さんの手首ほどの太さの鰻が釣れました。今のみなさんには信じられないことばかりでしょうが、昔の川ってそういうふうだったのです。私にとって地元の自然は「ワクワクの宝庫」でした。

今は時代が違います。川で釣りや遊ぶことが危険だとされる時代になりました。自然に対するイメージや認識が時代と共に変わってくることは仕方がないことです。しかし、昔と違うからといって語らなければ、後世には絶対伝わっていきません。今から釣りや川遊びをしないといふことではありません。「昔の川はこんなふうだったらしいよ」で結構です。これから大人になる皆さんには覚えておいてほしいのです。そうしないと、自然のよさが人々の記憶から完全に消え去ってしまう気がします。